

ICT 活用研修開発のための視察調査に関する記録・取りまとめ⑦

事業名	平成30年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」 I. 教職員の資質能力向上の推進 (ii) 教職員研修プログラムの構築事業
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 調査
開催日時	2018年11月06日 11時00分～12時00分
場所	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 (新潟県新潟市)
出席者	委員：山根大助 猪俣昇 視察先担当者：杉本千尋 梅川洸平 進行・記録：細野康男 石川大樹
聞き取り調査報告 (教員)	<p>国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校における ICT 活用事例の聞き取り調査を実施した。</p> <p>杉本 千尋 教務部 音響・照明科担当 梅川 洸平 教務部 ミュージシャン科・ウインドオーケストラ科 担任</p> <p>1. 現状、eラーニング含め ICT をどのように活用をされているか？</p> <p>全員がタブレット (iPad) を入学時に購入して持っている。</p> <p>ミュージシャンは、作曲ができるか・できないかで、お金になるか？ならないか？の大きな違いが出てくる。</p> <p>そこで、ミュージシャン科・アーティスト科では iPad のアプリで自分のオリジナル曲を作曲する指導をしている。使っているアプリは iPad アプリ「GarageBand で、音楽の知識がなくても直感的に楽曲製作ができる</p> <p>また、ミュージシャンは現在ミュージックビデオありきの流れにそれに対応すべく、泊まりがけの研修で、iPad による撮影・編集を行い、自分のオリジナルミュージックビデオを作成する授業を行っている。ソフトは iPad 付属の「iMovie」少し教えればすぐに編集できるようになるので導入しやすかった。</p> <p>また、ギターの授業などでは、教員が弾くところを、動画で収録しスローモーションで見せることや、学生の弾いているところを</p>

撮影し、その動画を使いフィードバックすることも行っている。

撮影した動画データのやりとりは、iPadのAirDropという端末同士を通信でつなぎ、受け渡せる機能を使っている。

音響に関してはiPadで機材コントロールができるので音響席でない場所から遠隔で操作している。

2. iPad導入でどのような効果や改善点があったか？

オリジナル曲を簡単に作れることで、作曲をよりよいものにするには？どうするか？と学生が考え、上級者向けの作曲ソフトにチャレンジするなど、ステップアップへの取り掛かりに非常に良い効果が発揮されている。

また今はICT機器が当たり前になった。ネットがない時代は全員が同じお題をやる形で授業を進められたが、今は特に音楽に関しては「この人が好き」という共通がなくなってきている。学生たちは日々違う動画などを見て、違うものを聞いている。

教員に教わるよりも早く、Youtubeなどで演奏を学ぶことを先にしている。教員のありかたを問われる時代。

個々で見えていかなくてはいけないのが大変だからこそ、ICTを使いそれぞれの個性・希望に合った指導をしている。

3. 授業中、iPadが机の上に出ていることは自然な状態か？ それとも使う・仕舞うを分けているか？

授業や先生にもよるが、常に出ている状態、スマホも出ている。学科では実技が多い、動いてやる授業が多い。

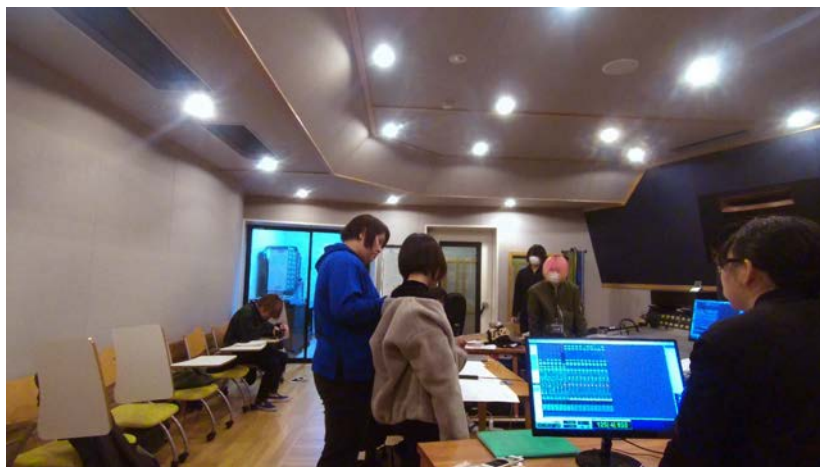
わからないことは、すぐに調べさせる。あとで見返すため自分で行ったこと（演奏・作業）を撮影させたりする。

授業の内容をボイスレコーダーで録音している学生もいるし、ホワイトボードへの教員の板書を撮影して書き込みをする学生もいる。

見学内容
所感

(見学内容)

◆スタジオ実習室での実習の様子 (写真1)



(写真1) スタジオ実習室でドラムを収録する様子
高価なスイッチャーがあるなか、PCのソフトで調整・収録している。

(所感)

- ・音楽系ということもあり、ICTとの相性がよい
- ・オーディション→デビューという流れから配信に変わっている情勢を踏まえた、作曲・映像制作の授業もiPadのみでできる範囲で取り入れており先進性を感じる
- ・AirDropでデータをやりとするなど効率的な運用ができています

以上